

千里地理通信

関西大学地理学研究会会報 第81号

Newsletter of Geographical Institution, Kansai University

Contents

Page 1 ……

新任教員挨拶

土屋 純

Page 2～3 ……

研究ノート

上海市の都市発展
と都市空間の変化

張 穎知

Page 4 ……

一泊バス巡検報告

三田・神鍋高原・
豊岡の自然と人文

兼子真直

Page 5 ……

今後の研究会行事

同窓会事務局
ニュース

Page 6～7 ……

地理学教室 50 周年
記念事業のご案内

Page 8 ……

卒業論文及び修士

博士論文一覧

教室ニュース

Page 9 ……

教室だより

研究会および同窓

会平成 31 年 1 月

～ 3 月会計報告

Page 10 ……

随想

「常識」を更新する
仕事—半乾燥地の

緑化活動と地理学—

大山修一

Page 4～9 ……

新専修生からのひ

と言

新任教員挨拶

土屋 純

2019年4月より、関西大学文学部地理学・地域環境学専修の教授として赴任いたしました。これまで半生を振り返りながら自己紹介をさせていただきたいと思います。

①群馬県で18年、②東京都で1年（予備校生活）、③愛知県名古屋市で13年間（名古屋大学、学部・大学院、助手）、④宮城県仙台市で16年間（宮城学院女子大学での勤務）、それぞれ生活しました。2019年4月より吹田市での生活をスタートさせました。9月までは単身赴任ですが、10月より家族4人での吹田生活がスタートします。

1971年3月12日、群馬県前橋市で生を享けました。群馬県北群馬郡榛東村で育ちました。榛名山の東斜面に展開する比較的平坦な農地が広がる村で、小学生の時には桑畑が多く、多くの友人の家で養蚕が営まれていました。小学生高学年になると、養蚕をやめる農家が増え、自宅が現代的な家屋に建て替えられ、水洗トイレが普及していったのを記憶しています。少年野球、中学校で野球部と一時野球に打ち込みましたが、才能がないことに気づき断念しました。高校はツインシティの一角の前橋市にある高校に通いました。進学校でしたので賢い友人に刺激された部分がありましたが、もともと田舎育ちのため受験勉強に対する意識が低く、その結果として浪人することとなりました。

東京都の河合塾池袋校に入学し、練馬区内の寮で生活しました。バブル経済下の東京ということで華やかな世界に魅了された部分がありましたが、比較的真面目な寮生活を送っていたので、この1年間で基礎学力を養成できたと考えています。

1990年4月、名古屋大学文学部に入学しました。2年次から史学科地理学専攻に所属することとなり、専門的な地理学を学ぶことができました。大学3年時には4泊5日での調査旅行（at 神戸市）を体験したのですが、事前学習の中でダイエーの本拠地であること、日本最大の生協であるコープこうべの存在を知ることとなり、聞き取りを中心とした流通研究を行いました。その後の卒論研究ではコープこうべに焦点を当て、その地域的な展開と商品供給システムのあり方について研究しました。夏休み期間には青春18切符で何度も神戸に出かけ、コープこうべの職員の方に情報を提供していただきました。

1994年より名古屋大学大学院・文学研究科・史学地理学専攻地理学専門に進学しました。大学院では、卒業研究で進めた流通研究を深めていくこととし、修士論文研究では、①愛知県の大手チェーンストアにおける物流システムの構築について、その後、②コンビニエンスストアの全国展開のあり方、③イギリスのチェーンストアの発展に注目した経済地理学的、都市地理学的な研究のレビュー、④郊外型書籍チェーンの深夜営業の実態、の4つのテーマを掲げて研究しました。その成果として博士論文を



2018年国際歴史地理学会（at ワルシャワ大学）での発表の様子

書き上げました。2002年には、名古屋大学大学院環境学専攻の助手を1年間務めました。

2003年4月から宮城学院女子大学・学芸学部・人間文化学科に助教授として赴任しました。宮城学院女子大学では人文地理学全般を教育していくこととなりました。このころから名古屋大学の溝口常俊先生（現名古屋大学名誉教授）にお誘いいただき、バングラデシュの農村部で市場（いちば）調査を行うようになりました。その後、インドにもフィールドを広げることができ、定期市のような伝統的な流通だけでなく、インドのデリー首都圏などに展開するショッピングモールの実態も調査するようになり、流通の発展段階や地域性について研究するようになりました。

2011年3月11日には東日本大震災が発生しました。その時、私はインドで調査していて地震を経験することがありませんでした。4日後に帰国し、家族と再会した時にはとてもホッとしたことを覚えています。被災地の研究者として何かできることはないかを考えていたところ、東北大学大学院経済学研究科地域イノベーションセンターが地域産業復興調査研究のプロジェクトを立ち上げられ、東北大学の研究者だけでなく在仙の研究者にも参加を呼びかけられていました。私はこのプロジェクトに関わることができ、①災害時におけるライフラインとしての流通システムのあり方、②津波被災地における地域商業の復興状況、について調査・研究することになりました。この研究から高齢者を中心とした買い物弱者問題にも注目するようになり、いわて生協などが実施する移動販売車の実態について調査し、国土の縁辺部での供給システムのあり方について検討するようになりました。

このように色々な出会い、経験を基として研究生生活を展開してきました。このような経験の中から写真撮影の趣味も生まれています。大学院生の時から一眼レフカメラを所有することとなり、海外調査等に出かけた時に色々なシーンを撮影しています。関西大学の教職員組合には写真同好会があるそうですので、関大での生活に落ち着いてきたら入部したいと考えています。加えて、私はスキーマの愛好者で、毎年1回はスキー場に出かけています。一緒にスキーに行っていただける方がいらっしゃいましたらよろしくお願ひ申し上げます。

（つちや じゅん：本学教授）

上海市の都市発展と都市空間の変化

張 穎知

1. はじめに

上海市には中国の都市で最も古い租界があり、そこを中心として上海市が近代的都市へと大きく変容した。そのため上海租界は、現代の都市空間や都市構造に大きな影響を及ぼすこととなる近代的都市空間を構成する主要素であり、都市整備の諸制度、人々の住宅・居住形態などに影響を与えてきた。改革開放以後の上海では、租界・居留地の概念も次第に薄れつつある。特に1990年代になると、浦東開発プロジェクトによって、上海市の地域の様相は一変した。

こうした、急速な都市発展によって、中心市街地の再開発が進むとともに、住宅問題、交通問題の解決を目指した開発や商業機能の整備・拡充などが進展してきている。また、経済の発展につれて、1990年代後半以来、地域間人口移動の規模が拡大し、上海市に流入する外来人口は一気に増加してきた。大都市圏の人口増加に伴って、巨大都市の都市化問題は深刻なものとなってきているといわれている。

2. 大上海の形成

1845年から1949年の間に、上海にはイギリスをはじめ各国から居留者が続々と訪れ、租界の拡大により上海は中国の金融・経済の中心地へと成長した。その結果、上海の租界は近代都市上海の原型となった。さらに租界が発展するにつれて、外国公館・税関・工部局・銀行・洋行（外国人商店）などのオフィス街として発展し、地域的分化を遂げた。また、工業地区は、黄浦江沿い西岸の楊樹浦方面と蘇州河沿い南岸に発展し、都心部においてはオフィス、商業などの施設と混在して、密度の高い多層住宅が建てられた。租界が西部へ延びるにしたがい、そうした地域が住宅街として機能していった。

日中戦争の勝利後、国民政府は上海市を受け取り、早々に都市計画の再開を目指した。租界を回収した後に、「大上海都市計画草稿」により、上海全体の都市計画の立案へと向かうことになった。しかし、その同年、上海市の解放によって、旧政府（国民政府）の「大上海都市計画」が中止となった。中国共産党は工業化の達成のため、工業を中心とする都市づくりを推進し、工人労働者むけの工業都市に相応しい施設を建設した。その結果、1949年前には有していた国内商業、対外貿易、金融などの多様な経済的機能は中央集権的計画経済の下で急速に衰退し、上海は多機能型都市から生産型都市へと変化していった。1978年以降、上海市を含め14の都市が沿岸開放都市として指定された。加えて、都市計画事業は土地有償利用政策から住宅商品化政策へと転換することになった。さらに1990年浦東開発を正式に決定し、事業前では加工業地、低収入階層の住宅地であったが、大規模開発事業によって、これらの企業、住民がほかの地区に移転し、都市の空間構造が大きく変貌した。

3. 人口と地域の変化

前述のように1949年及び1978年は上海市の転換点といわれており、1990年代以前では人口の増減を繰り返してきた。90年代に入ると、浦東新区の開発によって上海市の常住人口は増加することとなり、地域間人口移動が活発化した。移動人口の主体は農村からのいわゆる農民工で、大都市を目指す地方都市の出身者は増加し、人口急増の主因は外来人口の大量流入であった。

人口の流入につれ、多くの人々が生活している大都市上海を快適なものとするため、上海市全域に及ぶ新規都市開発だけでなく、旧市街地の再開発が進展した。都心部では老朽化家屋の改善と土地の再開発によって、租界時代に多数立地していた里弄住宅は商業施設、マンション、オフィスビルなどの建築に転換することとなり、都心部周辺区と近郊部では別荘とマンションの林立がみられる。一方、市街地の再開発に対して、人口の増加と都市空間需要の拡大に予め対応できるよう計画された近郊から郊外にかけてのニュータウンの建設も進み、住宅の

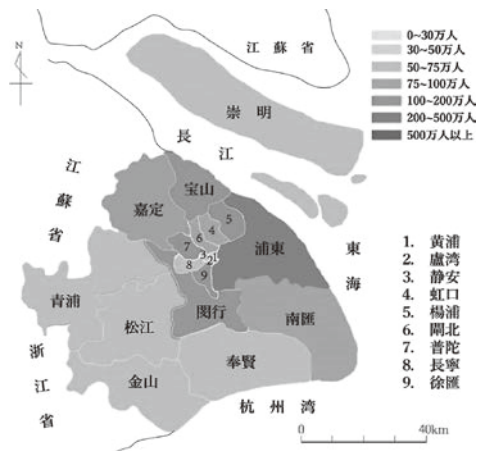


図1 2000年上海市の人口分布図

【資料】上海市第5回人口調査をもとに作成

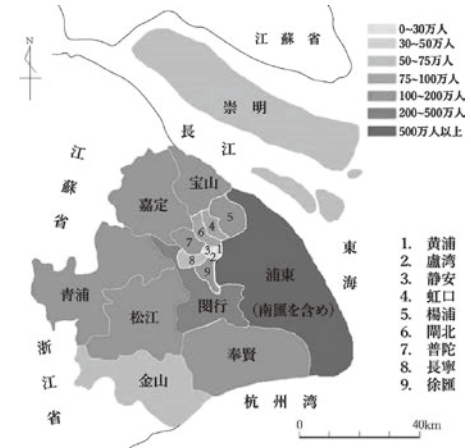


図2 2010年上海市の人口分布図

【資料】上海市第6回人口調査をもとに作成

郊外化が進展した。多機能な自立的なコミュニティを目指し、ニュータウンでは様々な施設の配置がみられる。このようにして、都心部の再開発と郊外化が同時に進展し、転出した居住者の一部は、都心から離れた郊外に移転する傾向が顕著なものとなった。そのため、近年では都心部の人口が減少し、近郊の人口は大幅に増えた。多数の外来人口が近郊に集中し、加えて上海の都心部の人口も郊外に移動する傾向があるので、都心部の戸籍人口が減る一方、近郊の人口は急速に増えることとなった。

外来人口に関する著者のアンケートでは、上海市の外来人口は20～30歳代が最も多く、青壮年層の外来人口は労働力人口として上海市の都市建設及び経済発展に重要な役割を担っている。また、その中では、上海市に至るまでに、途中で上海の隣接あるいは周辺の地方を経由する傾向、すなわちステップワイズ型人口移動がみられる。外来人口が増加した主な原因は就業先及び生活状況を改善する機会を求めてきたことが確認できた。従来、上海市の外来人口の出身地は華東地区からが多かったが、今日ではより遠くの安徽省と河南省出身の外来人口も急速に伸びてきている。現在その地域的分布でも、主な外来人口の吸引圏は上海市の周辺から内陸部に拡大する傾向もみられてきている。

4. 居住形態の変化

表1 住宅形態の変化

時代	1949年以前 (解放前) 【租界時代】	1949年以後 (社会主義) 【計画経済時代】	1990年代以後 (経済成長期) 【社会主義市場経済時代】
主要な住宅形態	里弄住宅 公寓(集合住宅) 花園住宅(一戸建) 棚戸住宅	工人新村 公有団地住宅	商品住宅 (マンション・別荘) 高層マンション (新富裕層)

住宅開発と居住の変化についてみると、1860年から戦争により租界は避難してきた中国人で溢れたため、イギリス人は木造低層集合住宅である里弄住宅を建設して賃貸住宅の経営をおこなった。1920年代から、新式里弄が作られ、それらは主に租界の西部に位置している。1949年以後上海の住宅開発が工業発展を念頭においた都市計画に基づいて行われ、工業化を進展するため、都心部周辺区に新村政策という住宅政策を実施し、郊外ではニュータウンの建設が進展した。都心部中心区では多くの里弄住宅がみられ、都心部周辺区では箱型住宅で、工人住宅団地が形成されてきた。

1990年代には住宅制度改革が行われ、国家は住宅の分配を停止し、住宅の商品化を促すようになった。この背景には上海の住宅の市場構造が多様化してきていることと関係している。住宅の形態としてはマンション(集合住宅)が主流となり、また、郊外には「別荘」と呼ばれる一戸建て住宅がみられる。一方、マンションは中心部のもので価格が高いものは一戸建て住宅と同様に高級住宅と認識されている。そのため、中心部のマンションは高層のものがほとんどで、低層のものは内環状より外側にみられる。

5. 商業の発達

都市の発展の過程で、都市交通の発達と都市の空間構造の変化は一体的に展開していった。

軌道交通が発達する以前には、上海市の商業施設は主に租界時期から繁栄している既存商業街に立地していた。1990年代に軌道交通の整備に伴って新しい商業地区が次々と登場し、2000年代以後軌道交通路線の増加とともに軌道交通に沿って商業地区が多く建てられた。その結果、今日の上海市の商業地区は、その形成時期と形態の違いなどから、2つの商業地区に類型区分できる。1つは既存商業街に基づいて拡張したものである。もう1つは新たな公共交通の中枢点を中心として形成されてきた商業地区である。要するに、主要な商業地区の形式は、沿道型(リボン)の商業地に加えて、軌道交通が整備されていく中で都市開発の中心が通りから徐々に軌道交通駅を中心とした商業地へと変化してきている。

こうした現代の商業施設の利用実態をみるためアンケート調査を実施した。その結果、上海市民全体としては最も多く利用している商業地区の立地点はいずれも内環線に集中している。さらに、商業地の立地する場所と各商業地の商業活動の特徴を組み合わせることによって、商業地の規模や商圏から、市レベル、区レベルおよびコミュニティレベルに分けられる。

表2 上海における商業地の分類(規模による)

①一般的商業地区	②特化した商業地区
i. 都心部に位置する。 ii. 地下鉄沿線に位置する。	a. 飲食・娯楽に特化している。 b. 高級品に特化している。

商業地の立地は、(i) 都心部と(ii) 地下鉄沿線の駅周辺に分けられる。また、商業地の特性では、一般的商業地区と特定の機能に特化した商業地区に分類される。さらに特化した商業地区は、(a) 飲食・娯楽機能に特化した商業地区、(b) 高級品ブランド品の販売に特化した商業地区に分けられる。

6. おわりに

上海市においては、大規模な都市更新に伴い、地域間人口移動の活発化し社会の流動化が加速している。内環線内の人口が減少し、外側の人口が増加した。また、都心部の再開発により市街地の高層化、旧市街地の改築等が急速に進行し、中心市街地の改造と再開発および住宅地の郊外開発の実態と居住形態の変化がみられる。都市開発と交通の発達によって商業施設の新たな立地展開が進み、商業の地域構造は大きく変化してきた。

参考文献

- 任海(2015)「都市更新に伴う上海市の人口分布の変化—地下鉄駅周辺の人口を中心に—」, 日本大学文理学部自然科学研究所研究紀要 No.50, pp.25-32
- 任海(2012)「上海市の人口増加とその要因について」, 地理誌叢(日本大学) 53(2), pp.31-39
- 中岡深雪(2010)「上海における都市の形成:都市計画と経済状況の変化による影響を中心に」, 経済学雑誌 111(3), pp.95-113
- 北山社, 山田泰宏, 川島和彦, 小嶋勝衛, 根上彰生, 宇於崎勝也(2008)「中国・上海市における軌道交通整備に伴う都市開発の実態に関する研究—駅周辺地域の商業機能に着目して—」都市計画論文集 Vol. 43.3, pp.1-6
- 巖網林・久保幸夫・石丸伸裕(1995)「近代化に伴う上海市都市化の進展」, 地学雑誌 104(4), pp.515-524
- (ちょう えいち:2019年3月本学文学研究科・博士前期課程修了, 株式会社ジェイワイド)

〈学部生〉

井上朝日

小さい頃から種類を問わず地図を眺めるのが好きでした。この専修で地理学を含めた様々なことを学びたいと思います。よろしく願います。

大坪直人

兵庫県神戸市に住んでいます。家は山が開かれて出来た所で、高校へは海の近くの高校に通っていました。神戸の特徴である海と山に触れることが多かったです。地域の特徴を見ることが好きなのでこの専修を選びました。よろしく願います。

奥田依吏子

1回生で受講した風土についての講義がとても面白く、風土や地球環境に興味を持ち、この専修に入りました。3年間よろしく願います。

尾上晃也

奈良県の実家から実質2時間ほどかけて通学しています。図書館に居座って文献を貪る性分ではないので、フィールドワークがとても楽しみです！よろしく願います！！

5月25日から一泊二日で「三田・神鍋高原・豊岡の自然と人文」をテーマにバス巡検へと向かった。新大阪駅に集合の後、バスに乗り込む。新御堂筋を駆け上がり、箕面とどろみICへと向かう。箕面出身である私にとって、地下鉄延伸に伴う箕面の盛況ぶりは嬉しい限りであるが、実際工事は遅滞しているようで、近くを通り、それを肌で感じた。

新名神高速道路、六甲北有料道路を乗り継ぎ、最初の目的地である「人と自然の博物館」へと向かう。「人と自然の共生」をテーマとした自然史系の博物館であり、兵庫県立大学自然・環境科学研究所の研究拠点でもある。ここで個人的に感銘を受けたのは、多様な種類のきのこの展示である。展示物のきのこには地元の高校からの寄贈というものもあり、地域とともに作り上げられている博物館であるということを感じさせられた。

その後、再びバスに乗り、丹波市氷上町石生いそにある「水分れ公園」と向かう。ここでは、日本で一番低い谷中分水界が見られる。一般にこのような訳のわからないものを遠出してまで、観に行くことは、理解されないであろうが、私はこの谷中分水界が楽しみで仕方なかった。瀬戸内海と日本海への運命の分かれ目となる道をたどる。ただそれだけであるが、それがいいのである。その興奮は私のみならず、他の学生からも感じ取ることができ、その異質性はまさに、この学生たちが確かに地理学専攻者ものであるからである。

続いてお昼の時間となり、「竹田城跡」を遠望しながら、山城の郷へと向かった。竹田城跡は2013年にGoogleのCMに起用され、「日本のマチュピチュ」と称されて以来、観光客数はうなぎのぼりで、近くの山城の郷にも多くの観光客が見られた。残念ながら今回は遠望にとどまったので、いずれ機会を設けて城跡まで足を運びたい。雲海と呼ばれる蒸発霧の発生する時期を狙って訪れたいと思う。

昼食後は、再びバスに乗り込み「神鍋高原」へと向かう。スキー場として有名な場所であるが、その裏面である夏場の避暑地としての涼しさを感じることはあまりなかった。別荘も散見されたが、手入れされていないものも多くみられ、全体的に元気のなさが見受けられた。道の駅では、各種お土産が販売されており、特産であるキャベツをチップスにしたお菓子が印象的であった。日本海との繋がりも感じる事が出来、海産物のお土産も目立っていた。

また近くの風穴も訪れた。神鍋山が噴火したときに、できた自然の空洞であり、天然の冷蔵庫と呼ばれる。涼しいというよりは寒さを感じるほどであった。私は今回の巡検でこの風穴が一番、感銘を受け、日本の各所にある風穴を巡りたいと思っている。

神鍋高原を後にし、向かったのは「コウノトリの郷公園」である。公園に到着する前にも、コウノトリの巣が何か所か見られ、町全体でコウノトリの育成に取り組んでいることがわかる。その最たる例が、水田農業である。コウノトリとの共生を目指し、安心・安全なコメの生産とコウノトリ自然復帰のために、餌場確保や農薬、化学肥料の不使用と生物が1年中生息できる水田環境を損なわない稲作づくりが行われている。こうした取り組みは世間受けが非常によいので、「コウノトリ育むお米」といったブランドを立ち上げ、時間とお金をかけて育成していけば、1つの新しい農業モデルになるのではないかと可能性を感じた。公園内には、飛び立てないように、羽を部分的に抜かれたコウノトリが数羽見られた。痛覚という観点では、全く問題はないようである。

その後、気比の浜（山陰海岸ジオパーク）へと向かい、初日は終了した。3回生、大学院生、先生方は宿泊施設へと向かい、2回生は大阪へと戻った。

翌日は、城崎温泉を巡った。数々の文豪が愛したこの温泉街を、歴史をたどりながら歩いた。川沿いに並ぶ柳の景色が、何とも言えない日本人の情緒を掻き立てる。残念ながら午前中のため、外湯巡りはできなかったが、解散後も、直ぐに帰ろうとはせず、城崎の街並みを楽しむ者も多くいた。

今回の巡検のテーマは三田・神鍋高原・豊岡の自然と人文がテーマであった。自然が生み出した景観、自然に伴った人々の暮らしなど、学べき事柄が実に多くあった。3回生編入である私にとって、今回の巡検は地理学の奥深さの一片を知りうる非常に良い機会であり、実際に足を運んでこそその地理学であることを改めて認識させられた次第である。

最後に、このような巡検をコーディネートしてくださった先生方には大変感謝を申し上げます。この経験をもとに、今後は自らテーマを設定し、下調べして、巡検を行い、より多くの地理学の見聞を広げていこうと考えています。本当にありがとうございました。

(かねこ まさなお：本学3回生)



丹波市氷上町石生の「水分れ公園」にて

今後の研究会行事

関西大学地理学研究会事務局

1. 秋の日帰り巡検

テーマ：南山城・京田辺市と井手町の都市化と自然改変

日程：2019年10月6日（日）10：00～17：00頃 雨天決行

集合：JR 学研都市線（片町線）・松井山手駅改札口 10時

（JR 大阪 09：17 → 大阪環状線 → 京橋 09：24 09：28 発 → 学研都市線 → 松井山手 09：57 着 500円, JR 淡路（阪急淡路から徒歩8分）09：21 → おおさか東線 → 放出 09：31 09：32 → 学研都市線 → 松井山手 09：57 580円 学研都市線は快速に乗車のこと。JR 京都駅八条口からは京阪バス「松井山手行き」終点, 「なんば（OCAT）行」は高速松井山手駅下車 所要約30分, 600円, 京都駅八条口から約15分ごとに運行, なんば（OCAT）からは「京都駅八条口行き」で60分, 1時間ごとに運行 雨天決行

* 帰途は JR 奈良線で木津 / 奈良, 京都へ, または JR 三山木・近鉄三山木駅へ徒歩。

コース：JR 学研都市線松井山手駅～駅前・インターチェンジ付近の変貌～花住阪住宅地～大住・月読神社～岡村～（バス）～一休寺・薪～ JR 京田辺～近鉄新田辺駅（昼食, 一次解散）～（電車）～近鉄興戸駅～防賀川（天井川）～飯岡（茶園・古墳）～玉水大橋～井手扇状地～ JR 玉水駅

費用：約1100円（+昼食代）

その他：「地理学・地域環境学基礎演習 a・b」の一環として2年次生が資料を準備して案内します。担当教員は土屋, 野間。参加ご希望の卒業生の方は, 10月4日（金）までに4回生（TA）の藤崎茜のメールアドレス, k874577@kansai-u.ac.jp まで, 氏名, 卒業年次 / 回生, 携帯連絡先をメールでお知らせください。

楠 和磨

はじめまして, 自然に興味があり色々なところに出かけるのが好きなので地理学を選びました。趣味は釣りとギターです。よろしくお願ひします。

小林加奈

私は大阪府東大阪市に住んでいます。父親が地理歴史が好きで高校の頃に教えてもらっていたら好きになりました。最近の趣味は散歩です。よろしくお願ひします。

酒井滉平

初めまして, 僕は観光や旅行やその計画を立てることが好きなので地理学専修を選びました。これから多くのことを学び, 楽しく過ごしたいと思っています。よろしくお願ひします。

四至本翔

はじめまして。昔から地図や地球儀を見るのが好きで, 受験勉強を通して地理に興味を持ちました。この専修で多くのことを学びたいです。よろしくお願ひします。

田仲息吹

小さい頃からさまざまな国の映像をテレビでみて, 行ってみたいと思っていました。この専修で地理的な知識を身につけて, 活かしていきたいと思っています。

〈同窓会事務局ニュース〉

- ・6月12日に2019年度第1回幹事会を開催し, 50周年記念行事について話し合いをおこないました。
- ・2019年11月16日（土）～18日（月）に関西大学千里山キャンパス等にて人文地理学会大会が開催されます。16日朝にミニ巡検（千里山住宅地, 豊津～垂水神社などの2コース）, 午後1時から特別発表（4件）, 千里地理学会として協賛の予定です。木庭元晴教授が特別研究発表の予定です。17日（日）は一般発表・地理教育の公開講演会, 研究部会, 18日（月）はバス巡検（岸部～総持寺～茨木市北部～高槻）です。詳しくは人文地理学会のホームページ, 雑誌『人文地理』をご覧ください。
- ・2019年12月14日（土）に地理学教室50周年記念式典と祝賀会を開催いたします。詳細は特集記事「地理学教室50周年記念事業のご案内」をご覧ください。
- ・前号でお知らせしたように1月～12月であった会計年度を, 4月～3月にあらためました。今年の1月から3月にかけての決算報告は今号の教室だよりに掲載しております。
- ・地理学教室より寄付を受けました。
- ・同窓会通信の執筆を募集しております。1ページ1600字程度, 半ページ800字程度です。執筆いただける方は教室メールアドレス [kandaichiri@gmail.com] までご連絡ください。また, 会費の納入状況などのお問い合わせも上記メールアドレスにお願ひいたします。

俵 幸恵

1年のときに様々な授業を受けましたが、地理に関連している授業がどれも面白く興味が持てたためこの専修を希望しました。これからよろしく願います。

寺田昂右

これから精一杯頑張っていきますので、よろしくお願い致します。

寺田優治

初めまして、大阪府豊中市出身です。知パスや学びの扉を受けて地理学おもしろそうだなと思ったので、この専修をしました。よろしくお願い致します。

中村 聡

こんにちは。小さい頃から鉄道が好きで、よく旅行に行ったり、地図を眺めたりしているうちに地理が好きになって、地理学専修を希望しました。よろしくお願い致します。

長尾剛周

学びたい分野はまだ決まっていますが、フィールドワークなどを通して自分の目で見て確かめ、経験することを大切にしていきたいです。よろしくお願い致します。

地理学教室 50 周年記念事業のご案内

本教室は1967年関西大学文学部史学科（1949年開設）に地理学専修が新設されたのに始まり、今年で創設52年となりました。また本年度の3月末をもって木庭元晴教授がご退職されます。そこで教室として創設から50年が経過したのと木庭教授の退職を記念して「地理学教室50周年記念事業」を地理学教室同窓会とともにおこなうことにいたしました。「地理学教室50周年記念事業」としては以下の事業を予定しています。

1. 千里地理学会（関西大学地理学研究会を千里地理学会と対外的な名称を改めます）

日 時：2019年12月14日（土） 13時～15時

会 場：千里山キャンパス 第1学舎1号館 A501教室

発表予定者：野間晴雄（関西大学教授）

「関西大学地理学研究会から千里地理学会創設へ」

土屋 純（関西大学教授）

「阪神・淡路大震災後のコープこうべにおける供給事業の変革」

細谷和海（日本魚類学会会長・近畿大学名誉教授・関西大学非常勤講師）

「シーボルトのみた水辺の原風景」

張 欣鑫（関西大学大学院博士前期課程）・安田えり（関西大学大学院博士前期課程）

「長野県軽井沢町の変容と地域活性化」

2. 地理学教室 50 周年記念式典

日 時：2019年12月14日（土） 第1学舎1号館 15時～16時

会 場：関西大学千里山キャンパス A501教室

話題提供予定者：橋本征治（関西大学名誉教授）

木庭元晴（関西大学教授）

* 式典終了後、16時30分から新しくなった実習室・実験室・院生室などをご案内いたします。

実習室での談話・交流会 16時30分～17時15分（キャンパス案内と同時刻開催） 自由参加

3. 50 周年記念祝賀会の開催

日 時：2019年12月14日（土） 17時30分～19時30分

会 場：関西大学 以文館（生協食堂） 着席buffet形式

会 費：1万円（『千里地理成長記3』を含む）

退職された先生を招いて教室の歩みをお話いただき、ご歓談いただく予定です。

* 参加費は可能な限り次頁の「関西大学地理学教室退職記念事業会」へ事前にお振り込みください。

* 祝賀会参加者には『千里地理成長記3』をお渡しいたします。『千里地理成長記2』2009年3月刊行以降の年譜、思い出文集（寄稿）、カリキュラム、実習調査地域、卒業論文・修士論文・博士論文一覧、「千里地理通信」目次などを掲載予定です。

4. 『千里地理成長記3』の刊行

2009年～2019年までの教室の活動記録と50年間の思い出文集を冊子にして刊行いたします。祝賀会に参加いただいた方には1冊贈呈いたします。祝賀会に参加されずに、学会、記念式典のみに参加される方には当日1冊2000円でお渡しします。今回の行事に参加されずに、拠金のみされた方（1口2000円）には後日、ご自宅に送付いたします。

50周年記念式典と祝賀会への参加申し込み方法

以下の専用申し込みフォームから10月31日までに参加申し込みをお願いいたします。

<https://forms.gle/vaP8Mt4yJRJoEK227>

* 関西大学地理学教室 HP から上記リンクに直接、移動できます。

スマートフォンのQR機能を利用する場合は以下のQRコードを読み取ってください。



郵送でのお申し込みは以下の住所まで氏名・住所・電話番号・入学年・50周年記念式典および祝賀会への出席の有無を記載し、郵送してください。

〒564-8680

大阪府吹田市山手町 3-3-35 関西大学文学部 地理学教室事務局

拠金の募集

「地理学教室50周年記念事業」では、50周年活動にあたって皆様からの拠金（1口2,000円）を12月末まで募集しております。拠金にご賛同いただける方は以下の口座をお願いいたします。1口以上ご賛同いただける方には『千里地理成長記3』をお渡しさせていただきます。

振込口座

銀行名：ゆうちょ銀行

振替口座：00960-0-196189（関西大学地理学教室退職記念事業会）

他の金融機関からの振込 店名：〇九九店

預金種目：当座

口座番号：0196189

『千里地理成長記3』の思い出文集原稿の募集

『千里地理成長記3』の刊行にあわせて「教室の思い出」、「授業や教員に関するエッセイ」に関する原稿（900字程度、33字×32行で書式設定、1頁完結）を募集いたします。ご寄稿いただける方は、氏名・卒業年を記載し、9月末までに教室メールアドレス（kandaichiri@gmail.com）または教室事務局まで送付してください。執筆要綱の詳細は教室HP（<http://www2.kansai-u.ac.jp/kugeoenv/>）に掲載しております。また、専修に関わる写真などありましたら、お送りください。

新田慎也

ファイナルなファンタジーが好きです。それと関係あるかはわかりませんが、旅をして風景を見たりするのも好きです。これからどうぞよろしく願います。

前山みつき

はじめまして、私は高校の地理の教科書にのっていたカルスト地形に一目惚れして地理をもっと学びたいと思って地理学専修に希望しました。よろしく願います。

矢野裕理佳

こんにちは。幼少期から環境や生き物の番組をよく見たり、高校時代に地理を勉強した影響で自然地理学に興味を持ちました。これからよろしく願います。

和田多生

初めまして広島からきました！観光や旅行が好きで地理学を選びました。フィールドワークがとても楽しみです。これからよろしく願います。

林 万葉

ロシアの地理について興味があります。また、部活で気象についても少し学んでいます。地理学専修では様々なことを学びたいと思っています。よろしく願います。

藤丸 紘生

こんにちは。兵庫県宝塚市に住んでおります。地理学に対する興味・関心で、化学生命工学部から転入してきました。2年間、よろしく願い致します。

兼子 真直

今春、社会人編入で入学いたしました。わからないところは多々あると思いますが、社会人として経験したことを少しでもゼミ等で還元していけるように頑張ります。よろしく願いいたします。

〈大学院博士前期課程〉

趙 欣鑫

中国北京の出身です。自然観光、世界ジオパークについて興味があります。今後、ジオパーク内の管理、地域の持続可能な発展、農村地域の地域活性化について研究を進めたいと思います。よろしく願いします。

李 嘉文

中国無錫出身です。去年、色々な専門知識を勉強して、お手伝いをさせていただいて、充実した日々を過ごしました。深い感動を受けます。今年、大学院に進学して、文化地理学、特に酒文化に興味があった、野間先生のゼミで学びます。撮影や美術なども関心を持っている。よろしく願いします。

卒業論文及び修士博士論文一覧 (2019年3月・9月卒業・修了, 博士学位取得者)

【卒業論文 2019年3月卒業】

- 家田 涼平 平成以降の高槻市の人口動向と土地利用の変化
- 伊藤 純弥 地下施設の発展と災害への対策 —大阪市と寝屋川流域を中心に—
- 重名ひな子 瀬戸内国際芸術祭による地域活性化と人々の暮らし
- 鈴木 涼太 大阪府のプロサッカークラブと地域の関係
- 辻村 啓悟 飛騨山脈双六岳に生息するハイマツへの自然環境が及ぼす影響
- 栩窪 亮太 嵯峨嵐山における景観変遷とイメージ変化 —前近代から近・現代へ—
- 中野さくら 様々な自然志向の実践とその実態について
- 二木 裕太 阪急東通商店街の変遷に関する研究
- 八川 綾佑 湯布院地域における伝統と観光を利用した地域活性化の取り組み —温泉まつりを事例として—
- 湯河 勝平 加太・友ヶ島における観光の現状と課題

岡村 裕子* 山城茶業の近年の展開と宇治茶の新たな風景の形成 —和東町を中心に—

蔭山 胡桃 奈良県北部の葬祭会館の分布の変遷と葬祭産業の変化

岸本 夕佳 大和八木駅周辺の都市開発と変遷

田所 亜未 伊吹山麓の民俗文化とその変遷 —旧伊吹町春照を中心として—

*は学部表彰者

【修士論文 2019年3月修了】

山岡真一郎 阪急宝塚線の通勤・通学史

張 穎知 上海市の都市発展と都市空間の変化 —2000年以後を中心に—

【論文博士 2019年9月博士学位取得】

別所 秀高 瀬戸内海東端に位置する河内平野の考古遺跡などから得られた完新世海水準変動と地形発達史 (主査: 木庭元晴)

●教室ニュース●

本学・大学院出身の別所秀高氏(公益財団法人東大阪市文化振興協会)が提出した学位論文「瀬戸内海東端に位置する河内平野の考古遺跡などから得られた完新世海水準変動と地形発達史」(主査: 木庭元晴, 副査: 土屋純, 米田文孝, 専門審査員: 中田高)の公聴会が6月27日に開催され、文学研究科委員会の議を経て、論文博士の学位を9月19日に授与されました。

教室だより

〈大学院研究生〉

徐 雨辰

中国四川省出身です。中国の大学で世界史を学びました。歴史地理学とアナル学派に興味があります。これから研究生として、地理学と歴史地理学の知識を身につけたいです。趣味はサッカーと旅行です。どうぞよろしくお願ひ致します。

■3月末に68歳（特別契約教授1年目）で退職された伊東理教授にかわって、宮城学院女子大学から土屋純教授が4月1日に着任しました。群馬県出身で、名古屋大学・同大学院で地理学を学び、学位を取得後、名古屋大学助手を経て、宮城学院女子大学現代ビジネス学部からの転任です。宮城学院女子大学には2003年4月から16年在職。1971年3月生まれ。専門は都市地理学、経済地理学、商業地理論です。インドやバングラデシュなどの海外調査や、東北大震災の復興についての研究があります。今年度は地理情報システムa、地理学・地域環境学実習、地理学・地域環境学基礎演習b、知へのパスポート、学びの扉、卒業演習などの科目担当です。とくに実習では松井准教授といっしょに軽井沢町での現地指導を10月上旬に実施予定です。

■平成31年（2019）度の地理学・地域環境学専修に所属された2回生は18名でした。さらに3年次の転専修が1名、社会人編入が1名加わりました。大学院博士課程前期課程には2名が入学、1名は大学院外国人研究生1名（中国・江蘇省出身）からの受験で、もう1名は神戸学院大学で地理を学んだ中国人留学生（北京出身）です。また新たに1名の大学院外国人研究生（中国・四川省出身、受入 野間晴雄）が入学しました。

これで現在の学生の陣容は次の通りです。2回生は18名、3回生は28名、4回生24名、博士課程前期課程7名、大学院外国人研究生1名、博士課程後期課程1名の計79名。

■2019年度は新たに非常勤講師としてご出講いただいた先生はありありませんが、3月末でご退職された伊東理先生に今年度のみ学部2科目、大学院1科目をご担当いただきしております。

■恒例の「地理学・地域環境学実習」のバスによる1泊巡検は、5月25日（土）～6日（日）に、三田「人と自然の博物館」～ウッディタウン～石生谷中分水（丹波市水分れ公園・資料館）～山城の郷（竹田城）～神鍋高原～コウノトリ公園（豊岡市）～豊岡市気比浜で、3回生、大学院生は気比浜に宿泊、翌日城崎温泉街をまわり、昼前にJR城崎駅で現地解散しました。宿泊は「民宿よしおか」でした。参加者は教員（土屋、野間、松井）を含めて51名でした。

■2019年5月11日（土）15:00～17:30に関

西大学千里山キャンパス第一学舎4号館201教室で、第141回人文地理学会・歴史地理研究部会が開催されました。テーマは「考古学に対する歴史地理学の貢献と未来－琉球グスク発掘の現場から－」で、玉城靖（今帰仁村歴史文化センター・館長）「世界遺産今帰仁城跡と城下集落」、森下真企（西宮郷土資料館・学芸員）「発掘の現場から考える考古学と歴史地理学」、討論の司会は松井幸一でした。

■5月19日（日）教育後援会が午後開催され、野間、土屋が専修所属のご父兄と懇談・対応をしました。

■大学院合同演習はOBの参加もあり、昨年に引き続き関西大学梅田キャンパスで7月21日（日）、13時～17時40分に実施しました。海思琪、趙欣鑫、徐雨辰、李嘉文、桑名友太、中井香月、松川昭太朗、安田えりの8名の発表がありました。その後、中崎町「べじとん」で慰労会を行い春学期の締めとしました。

■ベトナムでのフィールドワーク研修4年目として、来年2月にフエとハノイ近郊で実施予定です。松井が主として担当します。また来年2月下旬にはベトナム国家大学ハノイ理科大学地理学部から学生・大学院生が教員引率で来日予定です。

■2019年3月～9月までの教員の海外出張は以下の通りです。①野間晴雄：韓国、韓国農村の集落再編成視察（科研費：9月17日～19日）

研究会および同窓会 平成31年1月～3月 会計報告

(収入)	(円)
会費（8名）	16,000
寄付金	274
計	16,274
(支出)	(円)
千里地理第80号印刷代	79,920
郵便発送代	220
切手代	724
雑費	1,480
計	82,344
(収支残高)	(円)
前年度繰越金	474,390
収入－支出	-66,070
計	408,320

「常識」を更新する仕事 —半乾燥地の緑化活動と地理学—

大山修一

2017年度より関西大学文学部で非常勤講師として、春学期の週ひとコマ、「文化人類学a」を担当しています。野間晴雄先生から、専門分野に特化せず、フィールドワークの大切さや、自然や環境をふくめ、幅広い分野を取り上げて欲しいと要望があり、親族体系、モノの所有と分配、アフリカの貧困、市場経済の仕組み、環境問題、平和と暴力など地理学と文化人類学の境界領域のテーマを選び、時事問題も取り入れながら授業をしています。受講生には用語を暗記するのではなく、「常識」を疑うこと、そして、常識に対するさまざまな見方、意見・価値観の相違があることを伝えています。

わたしの専門はアフリカ地域研究です。春学期が終了すると、8月にはザンビアとエチオピア、9月にはニジェール、10月にはジブチ、11月と12月にはザンビアへ出かけます。ニジェールとジブチでは砂漠緑化について研究しています。サヘル帯のニジェールでは2000年より調査を開始し、都市ゴミを使った緑化実験を繰り返してきました。いままでに、首都ニアメなどより2303トンのゴミを運び、合計34カ所、10ヘクタールを緑化し、フルベの牧畜民に放牧地として提供しています。

都市ゴミを使って荒廃地の環境修復をし、緑化を進める。そんなことができるのか？と思う人も多いでしょう。固い堆積岩にゴミを置くと、季節風が運ぶ砂を受けとめ、ゴミを餌とするシロアリの蟻穴を通じて雨水が浸透し、そして、シロアリが地表面に団粒構造をつくります。この団粒構造により、植物は根を張りやすくなります。都市ゴミの化学性は弱アルカリ性で、強酸性である堆積岩のpHを中和します。家畜糞が混ざるゴミには、大量の窒素やリン、カリウムといった植物の三大元素のほか、カルシウムやマグネシウム、亜鉛、銅といった微量元素が含まれます。そして、ゴミには家畜の食べ残した飼料、調理中にこぼれ落ちる作物の種子が含まれ、種子が発芽し、生長します。



50m四方にフェンスを張り、5cmの厚さでゴミをまくと、雨季の到来とともに植物が生育します。そこに家畜を入れ、家畜に植物を食べさせます。牧畜民には、飼料となる植物がなくなっても、2週間だけ夜間にフェンスのなかに家畜を入れるようお願いします。ウシやヤギ、ヒツジなどの家畜は大量の糞を落とします。その糞から、大量の樹木が発芽します。家畜によって反芻や排泄された種子は、発芽しやすくなります。YouTube (<https://www.youtube.com/watch?v=p11ImHj8RRE>)で緑化の様子をみることもできます。

このフェンスを、どのような土地にするのか。放牧地か、耕作地か、森林なのか。あるいはゴミ処理に特化するのか。いずれにも仕立てることは可能です。樹木をすべて伐採すれば、耕作地になります。あるいは樹木を間引きし、トゲのある下枝を剪定すれば、木陰のある放牧地になります。樹木を残せば、森林になります。高さ1mにゴミを積み上げ、地表面に堆積岩を砕いた細粒物質を5cmの厚さで覆えば、ゴミを埋設することもできます。

都市ゴミには、ビニール袋や有害物質が多く含まれると心配する人も多いでしょう。ビニール袋やプラスチックは土壌水分の蒸発をふせぎ、日光・乾燥に弱いシロアリに住み処を提供します。家庭から排出された直後のゴミから、重金属は検出されません。ゴミは不用で汚く、危険なものと思ひ嫌うばかりでなく、サヘル帯では循環させることで、農地の生産性を高め、放牧地を造成できるのです。

この研究では住民との対話や協働も重視し、わたしが授業で伝えようとする、文化人類学と地理学の境界領域の楽しさと可能性にもつながります。

ニジェールの降水量は年間450mm、降雨は6月から9月に集中します。10月に初めて調査するジブチでは年間降水量は120mm、1年のうち、いつ雨が降るのか予測できません。灼熱の国ジブチで、どんな方法で砂漠緑化ができるのか。「常識」をくつがえすような研究をしたいと夢んでいます。

(おおやま しゅういち：京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究
研究科准教授/本学非常勤講師)

千里地理通信 第81号

2019年10月1日 発行 (400部)

関西大学地理学研究会

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35

関西大学文学部地理学・地域環境学教室内

編集担当：土屋 純 藤崎 茜

tel : 06-6368-1121 (内線 4890 : 大学院生室)

e-mail : kandaichiri@gmail.com

url : <http://www2.kansai-u.ac.jp/kugeoenv/>

郵便振替：大阪 00970-4-81149